



特許制度活用便利帳

1

弁理士 石田 悟

<Q> 特許を効果的に取得する方法を教えてください。

<A> ケース・バイ・ケースです。お気軽に創英までご相談下さい。

現 在、我が国においては、「知的財産立国」ということが声高に叫ばれています。こうした中、企業においても、また、大学などの研究機関においても、特許戦略の重要性がますます高まりつつあります。

とはいえ、一口に特許戦略が重要と言っても、言うは易し、行うは難し。それに、特許戦略が重要なのはわかるけど、それには時間も、手間も、費用もかかる。だから、それらが無駄にならないように効果的な特許戦略を展開しなければイケマセン。

効果的な特許戦略の展開。それには、特許制度の枠組み、制度のツボを知った上で、個別具体的に制度の活用方法を考えることが必要です。なんだか当たり前ですが、それを徹底的に実行するのはなかなかムズカシイ。ここに、専門家集団たる特許事務所の出番があるわけです。

特 許制度を知る、と言うのは、単に個別の知識の寄せ集めでは制度の効果的な活用には結びつきません。それらが互いにリンクされた「知識の有機的集合体」として制度を知ることが、特許制度を十分に活用する鍵となります。

創英では、豊富で多様な事例を日々積み重ねつつ、それらの事例から得られる知識をフィードバックすることによって、事務所全体として、特

許制度を効果的に活用するための知識の有機的集合体をグレードアップしています。いわば創英は、特許制度を効果的に活用するための情報を満載した便利帳です。

「特許を効果的に取得する」と言っても、これはあらゆる意味でケース・バイ・ケースです。効果的な特許の意味、あるいはその効果的な取得方法は、例えば、自社製品のフォローを重視したものか、他社製品対策を重視したものか、技術の将来性はどうか、費用低減が重視されるのか、早期の権利化が重視されるのか、などといった特許の戦略的な位置付けによって全く異なったものとなります。また、特許戦略以外の観点、例えば、営業的な製品展開上の観点、あるいは外部発表を含めた研究活動上の観点などとのバランスを考えることも必要でしょう。

そんな千差万別のケースを前にして、効果的な制度活用に迷うことがあれば、便利帳に尋ねてみましょう。

「そういう話なら、 を利用して出願したらどうでしょう。××にも気がつけた方が良いですね。あ、それから将来的には も検討することをお勧めします」と、いろんな提案が返ってくるハズです。

わ かりやすく酒にたとえるならば、バーに行ってラスティネイルを飲みたいと思ったら、「ラスティネイル下さい。」と注文すれば一応飲めます。だけど、それが本当にベストマッチなのかワカラナイ。一方「ラスティネイル、スコッチはタリスカ、レシピは30:30で」

と注文すれば、個別具体的なベストマッチの酒が飲めますが、レシピとか酒の銘柄とかに詳しくないと酒が楽しめないのではちょっと困る。そんなとき、創英(バーテン?)に「スコッチが好きです。でも、風邪気味なので何か甘めの...」と大雑把な注文をすれば、便利帳(カクテルブック?)をフル活用したベストマッチのラスティネイルが出来てくるというワケです。わかりましたか?(ワカラん!)

そ んなわけで、ベストマッチの特許制度の活用方法についてはお気軽に創英に相談して下さいとさりげなく宣伝しつつ(さりげなくないけど)、この紙面上でも可能な範囲で、主に制度紹介の観点から有用な情報を発信していこうというのが「特許制度活用便利帳」です。こんなところが知りたい!とか要望、質問などありましたら、是非お寄せ下さい。

十 十 十

...ちなみに、ラスティネイルとは、ドランブイ(約40種のスコッチにハーブや蜂蜜を配合したりキュール)とスコッチウイスキーとを、20:40で注いでステアしたカクテルです。

なお、このコーナーで酒の解説するのはこれが最初で最後の予定ですが、未定です。(^_^)

以上